

平成27年10月25日
今週のベストショット



奈多グラウンド 三苦ホーネッツ 対 雁ノ巣ライナーズ戦
優勝戦線生き残りを懸けた大一番で、見事完投勝利を挙げた三苦ホーネッツ井手崇運投手。

写真：三友クラブ 大坪和則

青松園B 終わって見たら…。

レッドサンデーズ（5勝8敗）000000 0 土師●、八島一前田

新町ウインズ（10勝2敗）001063x 10x 藤田○ー永淵

2BH：永淵2、桐島、泉（新町ウ） 盗塁：永淵2、桐島

新町ウインズ先発の藤田投手は、立ち上がりに失策とWPで二塁に走者を進めるものの、その後は球威で後続をねじ伏せるピッチング。一方のレッドサンデーズの土師投手も、先頭の永淵選手に二塁打を放たれるものの、バックの好守でダブルプレーを完成し初回を無失点で切り抜ける。試合が動いたのは三回裏。ウインズは単打と失策で一三塁の形を作ると、すかさず一塁ランナーの永淵選手が二盗を試みる。捕手からの送球がやや乱れる間に、三塁ランナーの泉（晴）選手が先制のホームを駆け抜けた。なおも四球と失策で一死満塁のチャンスを作るが、ここもダブルプレーで1点止まり。緊迫した投手戦の様相が一変したのは五回裏、ウインズは永淵選手の2本目の二塁打をきっかけに4四死球を絡めて一挙6点を奪う。レッドサンデーズも初登板の八島投手を投入して防戦に努めるが、続く六回には桐島選手の左越えの当たりで、二塁走者がホームインした時点でコールド（桐島選手はホームインしたが、柵越えではないので記録は二塁打）。ラスト2イニングで9点を挙げたウインズの圧勝となった。（記事：塩浜ジャガーズ 高嶺信彦、写真：橋村明浩）



球威抜群、新町ウインズの藤田投手。



四回まで好投、レッドサンデーズ土師投手。



安心してください、ブロックしてますから。レッド前田捕手。



リリーフでほろ苦い初マウンドになったレッド八島投手。



御年72歳のフルスイング、レッド田浦選手。



最終回、コールドを決める左越え二塁打を放つウインズ桐島司選手。



投打のヒーロー、永淵捕手（左）と藤田投手（右）。

奈多グラウンド 序盤を制したホーネッツが勝利！

三苫ホーネッツ（10勝1敗1分）53010 9 井手○ー広木
雁ノ巣ライナーズ （9勝3敗）01006 7 有馬●、鳥越一岡村

2BH：有村（三苫ホ）鳥越2、宇野（雁ノ巣）

盗塁：山崎、今田、松尾、三浦、稲葉、広木（三苫ホ）、明瀬（旭）（雁ノ巣）

両チームとも9勝で残り2試合、優勝候補同士の試合となった。先発はライナーズ有馬投手、ホーネッツ井手投手。一回表ホーネッツはいきなりライナーズ有馬投手を攻める。二番山崎、三番今田選手が四球で出塁すると盗塁とPBで一死一三塁とする。そして四番広木選手が高々とレフトへ犠飛を放ち1点を先制。制球が定まらない有馬投手は続く五番松尾選手にも四球を与えてしまう。ここからホーネッツは猛攻を見せ、六番有村、七番三浦、八番井手選手の三連続タイムリーヒットでこの一回一挙5得点。打者一巡でライナーズの攻撃の前に主導権を握った。その裏ライナーズは一番明瀬（旭）選手がセーフティバンドで出塁するが後が続かず3人で攻撃が終わってしまう。二回表、ホーネッツは三番今田選手が死球で出塁。四番広木選手が三塁手のグラブをかすめるレフト前ヒットで一死二三塁とすると、五番松尾選手が二塁手の頭上をこれもグラブをかすめるセンター前ヒットを放ち2点を追加。続く有村選手がレフト線へのタイムリー二塁打を放ち、この時点で8-0とライナーズの勝気を奪う展開となった。しかし、二回裏、ライナーズは四番宇野選手がライト前ヒットを放つと六番鳥越選手がレフト線二塁打を放ち1点を返し反撃なるかと思われたが後が続かなかった。ライナーズは三回表からそれまでライトを守っていた鳥越投手を投入。ホーネッツは四回に相手のエラーもあって1点を追加し、五回表を終わった時点で9-1と点差が開いた展開となっていた。しかし、ここからライナーズは怒涛の攻撃を見せる。一死後代打永吉選手が鋭いレフト前ヒットを放つと九番池内選手、一番明瀬（旭）選手が連続ヒットで満塁とする。そして二番明瀬（航）選手、三番中口選手が外野へのタイムリーヒットを放ち2点を返す。雰囲気はもうライナーズの押せ押せムード。ここで四番宇野選手が左中間へ走者一掃の大きな打球の二塁打を放ちベンチは大盛り上がり。更に五番久保田選手がレフト前ヒットで続き、一死一三塁とチャンスは続く。ホーネッツ井手投手は冷静にピッチングを続けるが、続く六番鳥越選手がレフト線への二塁打を放ち、2点差まで追い上げる。そして二死二三塁と一打出れば同点、HRで逆転というところで、この大チャンスのきっかけとなった永吉選手が打席に入る。そして放った打球はライト前へ。落ちて抜ければ逆転かと思われたが、ホーネッツライト有村選手がダッシュして落ちる寸前で好捕！ゲームセットとなった。大いに盛り上がった試合だった。最後に打線が繋がったライナーズの攻撃もすばらしかったが、チャンスに堅実に得点を重ね、ピンチにも冷静に対応したホーネッツナインは素晴らしかった。（記事：三友クラブ 駄原孝一郎、写真：大坪和則、八尋豊）



三苫ホーネッツ先発のベテラン井手投手。



雁ノ巣ライナーズ先発の有馬投手。



先制犠飛を放ったホーネッツ四番広木選手。



一回表、中前適時打を放つホーネッツ七番三浦選手。



二回表、左線二塁打を放つホーネッツ六番有村選手。



二回裏、左線へ適時二塁打を放つライナーズ六番鳥越選手。



三回裏、セーフティバントのライナーズ九番池内選手。



五回表、代打に立ちヒットを放つホーネッツ隈崎選手。



五回裏、代打で反撃のきっかけライナーズ永吉選手。



五回裏、右前打を放つライナーズ一番明瀬(旭)選手。



右前適時打を放つライナーズ二番の明瀬(航)選手。



満塁で走者一掃二塁打を放ったライナーズ四番宇野選手。



五回裏、まさかの展開にマウンドに集まり作戦を練るホーネッツナインと中村監督。



あわやヒットになる球を好捕してチームを救ったホーネッツ有村右翼手。

青松園A 投手戦になると思われたが・・・

三苦フレンズ (4勝9敗) 000001 1 生野(拓) ●-西山

奈多クラブ (6勝4敗3分) 000424 10 今林(瑠) ○-安河内

HR: 安河内(奈多ク) 3BH: 佐藤(三苦フ) 盗塁: 今林健、木伏(奈多ク)

一～三回を無失点で抑えてきた三苦フレンズ生野投手だったが・・・四回に突然の四死球からリズムを崩しこの回4失点。その後失点を重ね終わってみれば6失点。一方奈多クラブは今林(瑠)投手の4安打1失点、6奪三振、四死球4の好投で見事勝利。女房役の安河内捕手のレフト線への本塁打が決め手となった試合でした。

(記事: ソルトベイスターズ 酒井哲朗、写真: 坂田健児)



好投した奈多クラブ今林瑠生投手。



本塁打を打った奈多クラブ安河内選手。



試合後笑顔の奈多クラブ今林瑠生投手（左）と安河内捕手（右）バッテリー。

第24週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

第24週、10月25日は3試合が行われました。

青松園Bのレッドサンデーズ対新町ウインズ戦は、一回表二死二三塁のピンチを三振で抑えたウインズ藤田投手はその勢いを加速していく。結果レッド打線を二番川原選手のヒット2本だけに抑え完封。一方今シーズン初先発のレッド土師投手もランナーを背負うも粘り強い投球。三回に1失点して迎えた五回裏、ウインズ一番永淵選手の二塁打を切っ掛けに投球を崩し、犠飛を挟んで5連続四死球で見かねた初マウンドの八島投手にスイッチ。二死を取るものの2失点。最終回も得点を重ねたウインズが0-10xのスコアで勝利し、優勝戦線に残った。

奈多グラウンドの三苦ホーネッツ対雁ノ巣ライナーズの優勝戦線を懸けた一戦は、初回ライナーズ有馬投手の立ち上がりを捉え、四番広木選手の犠飛で先制すると、六～八番の三連打で5得点。更に二回表にも三連打で3点と序盤で試合は決した・・・かに思われたが、この一年優勝を目指してきたライナーズが最終五回裏に猛反撃。一死からホーネッツ先発の井手投手を攻めて八番代打永吉選手～六番鳥越選手まで驚異の8連打。しかし、最後は連続右飛に打ち取り9-7でホーネッツが辛くも優勝戦線生き残りを決めた。

青松園Aの三苦フレンズ対奈多クラブ戦は、三回まで投手戦の様相を呈していたが、四回裏四死球からランナーを溜めて、七番今林祐将選手が先制タイムリーを放つと一番今林賢人選手の当たりがライトエラーで加点。二番今林瑠生選手のタイムリーで4点目。続く五回裏は女房役安河内選手の2ランHR、六回裏にも4点を挙げ、終わってみれば1-10で奈多クラブが今季最終戦を勝利で飾った。

残すところ2試合となった平成27年度WSLも優勝の可能性は3チームに絞られました。ホーネッツとウインズは、11月1日（日）青松園Aにて行われる直接対決で勝った方が優勝。もし引き分けたなら、勝ち点で並ぶホーネッツとフェニックスのプレーオフ（11月8日7時～青松園Aで開催予定）です。

直接優勝対決の審判は我がレッドサンデーズなので、緊張しますが、公平なジャッジと共に、いい写真を撮ろうと思います。

もう一試合、昨年優勝の奈多サンデーズと惜しくも優勝戦線から脱落した雁ノ巣ライナース戦も青松園Bで行われますので、皆さん11月1日は朝7時から青松園で熱戦を目の当たりにしてください。

プロ野球SMBC日本シリーズは、福岡ソフトバンクホークスが4勝1敗で東京ヤクルトスワローズを下して見事2連覇達成です。

圧倒的な投手力と打力で優勝したホークスですが、四番でキャプテンの内川選手を怪我で欠いての戦いでした。開幕からチームのために四番とキャプテンという重圧に加え、新監督を支えるという重責を背負っての一年。しかし、内川選手の活躍で掴んだこの一年の集大成である日本シリーズでの欠場は誰よりも悔しかったでしょう。

そんな内川選手の背中を見てきた選手たちだからこそ、その集中力は凄まじく、90勝したペナントレースさながらの圧倒的な力で日本一に輝いたのかもしれませんが。

私も、不肖ながら四番キャプテンを務めさせて貰っていますが、果たしてその背中でチームを牽引出来ているかと尋ねられたら甚だ疑問です。

最終戦ではありましたが、無断で欠席する者もいましたし、チームを鼓舞して監督・運営委員への協力体制を確立することもままなりませんでした。

しかし、打撃投手を練習することで、私個人の昨年来からの目標であったWSLに投手として登板しましたし(志願登板でしたが)、マウンドに立ってみて次に生かす発見もありましたので、新たな目標も出来ました。ちなみにその日のうちにレッド江口投手とウインズ藤田投手に教を乞いました。

たとえ勝とうが負けようが、ただ試合を消化するのではなく、新たな発見、目標を繰り返して個人が、チームが、WSLが成長していけるといいなと思います。

「全員 熱男～!!!」